

入場者数、過去最高に

東京モーターサイクルショー開催

小池都知事が「ゼロエミバイク」訴求

国 内最大級の自動二輪車関連展示会「第45回東京モーターサイクルショー」=写真上=が3月23日から25日まで、東京・江東区有明の東京ビッグサイトで開かれた。トータル562台の最新車両が展示されたのに加え、多彩なイベントが繰り広げられる中、東京都の小池百合子知事=写真下=も特設ステージに登壇し、電動バイクの普及に向けたメッセージを発信した。

同展示会は1971年に第1回が開催されて以来、今年で45回目。出展事業者数135事業者と昨年に比べて20事業者減少したものの、3日間の延べ入場者数は14万6,823人と過去最高を記録する賑わいとなった。

初日の開会式では、主催者である東京モーターサイクルショー協会の赤坂正人会長が挨拶。高校生限定早割無料キャンペーンの実施など新規顧客の開拓に力を入れたことなどを説明したうえで、「皆さまから存在と存続を期待されるショーとなることを目指して、今後も活動を続けていく」と述べた。

イベントは屋内の特設ステージや屋外の会場などで多彩に展開。屋内ではモトクロスやロードレースのライダーが多数出演するトークショーや交通安全教室、子供向けの仮面ライダービルドショーや工作



教室などが開かれ、屋外では恒例の警視庁女性白バイ隊「クイーンスターズ」による模範走行やトライアルのトップライダーによるパフォーマンスなどで観客を沸かした。

小池都知事は最終日の特設ステージに登壇。都として、電動バイク用充電設備の整備を進める方針を表明するとともに、「電気と水素（燃料電池）の2つを使ったバイクを『ゼロエミバイク』と呼び、東京都としてぜひ後押ししていきたい」と語った。

〔東京都自動車会議所〕

量産型燃料電池バス 3両を導入

東京駅～東京ビッグサイト間で運行

東京都環境局・交通局

東 京はこのほど、量産型燃料電池バス3両を導入し、3月29日から東京駅丸の内南口～東京ビッグサイト間で運行を開始した。昨年3月から

運行している2両と合わせ、燃料電池バスは計5両に増加した。

東京都は水素社会の実現に向け、水素ステーションの整備拡大や燃料電池自動車・バスの普及に取り組んでいる。今回の量産型燃料電池バスの導入もこの一環で、2020年までに都内で100両以上の普及を目指している。

今回の運行ルートは、東京駅丸の内南口から有楽町駅—銀座4丁目—築地3丁目—勝どき駅—有明テニスの森—を経由して東京ビッグサイトに通じるルート。
〔東京都自動車会議所〕